

地域コミュニティのマグマ

地域IXは地域活性化の切り札か？

2023年1月25日

株式会社グローバルネットコア

金子 康行

yasuyuki.kaneko@global-netcore.jp



<https://www.global-netcore.jp/>

自己紹介

・金子 康行（かねこ やすゆき）

- ・株式会社グローバルネットコア 常務取締役
- ・越後ネットワークオペレーターズグループ（ENOG） 運営委員
- ・新潟県新潟市出身・在住
- ・趣味は歌舞伎・文楽の鑑賞、薪割り、日本酒など



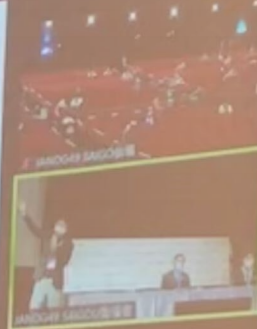
「乗り越える」

① ウィズコロナ時代のミーティング開催の形が見えてきて、
JANOGコミュニティ全員がこの苦難を「乗り越える」タイミングが来た。

② JANOG49を「乗り越える」経験の発表の場としたい。
それぞれが抱える困難・課題を工夫で「乗り越えた」経験を共有した発表は印象に残るのではないかと
もちろん、重要な情報共有や、ディスカッション中心の発表など、テーマに縛られない発表も歓迎

③ 越境エンジニアの応援。

過去のJANOGは、従来のオペレータやエンジニアの枠に収まらないタイプの人たちが大勢活躍している。
このテーマによって、参加者が、自分の領域を「乗り越えて」活躍することを少しでも応援できたら。



これまでのあらすじ

前々回（JANOG48）の振り返り

JANOG48 IXの現状と新たな展開 -サステナブルなIXを目指して-
金子発表資料
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog48/newix/>

「地域IX」の理想と現実

- **地域内回線コストが高すぎる問題**
 - 県内都市間接続は大規模需要が少ない上に距離も長い
 - 東京までの回線の方が県内向け回線より安いという実態
- 県内事業者の相互接続を促進するためには、安価な通信回線が必要
- **改めて「地域情報ハイウェイ」の整備と運用が必要なのでは??**
 - コミュニティ形成と人材育成の場として
 - 実証実験やインキュベーションの場として

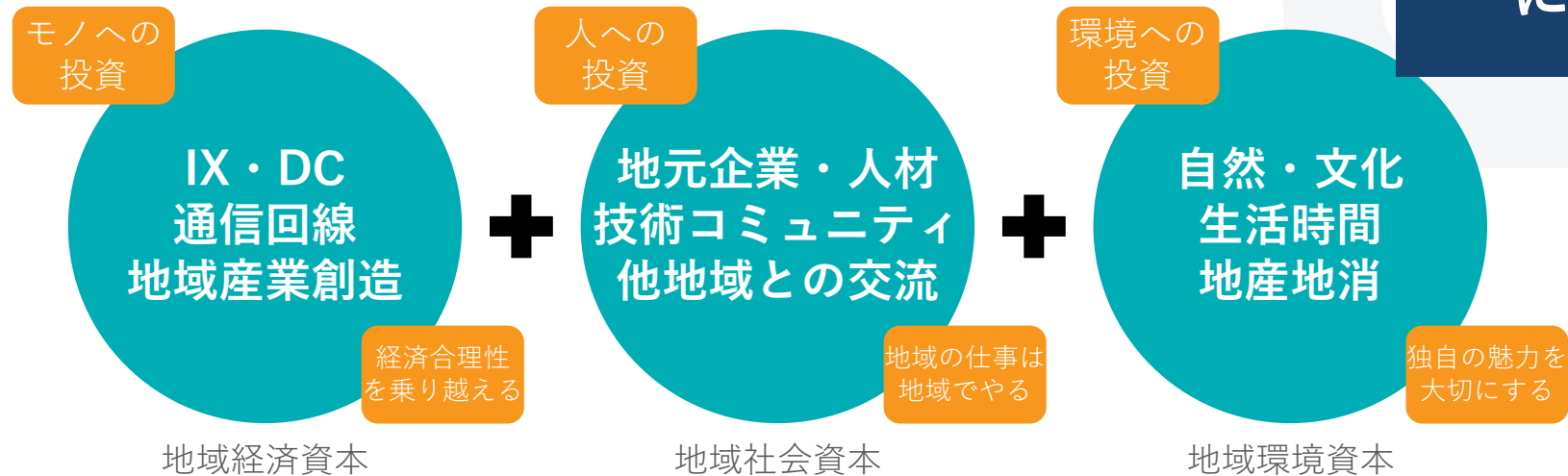
地域情報ハイウェイ
の必要性



前々回（JANOG48）の振り返り

JANOG48 IXの現状と新たな展開 -サステナブルなIXを目指して-
金子発表資料
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog48/newix/>

置き換えれば



「鎌倉資本主義」
に学ぶ地域資本

地域独自の魅力と人材を糾合することで活性化！

それを支援するためにこそ行政は投資を、企業は覚悟を・・・

前回 (JANOG49) の振り返り

続・IXの現状と新たな展開 -地域IXの展開と果たすべき役割-
金子発表資料

<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog49/contix/>

デジタル田園都市国家構想 施策全体像

デジタル田園都市 国家構想とは


施策の全体像 【総額 5.7兆円】 ※R3補正予算、R4当初予算案における関連事業の合計額

(1) デジタル基盤の整備
5G、データセンターなどのデジタル基盤の整備を推進。国主導の下、共通ID基盤、データ連携基盤、ガバメントクラウド等を全国に実装。

【主要施策】

- 5G等の早期展開
(2023年度までに、人口カバー率を9割に引き上げる)
- データセンター、海底ケーブル等の地方分散
(十数か所の地方データセンター拠点を5年程度で整備。
「デジタル田園都市スーパーハイウェイ」として、3年程度で日本を一周する海底ケーブルを完成)
- 光ファイバのユニバーサルサービス化
(2030年までに99.9%の世帯をカバー)
- 自治体システムの統一・標準化の推進 等

＜デジタル田園都市が作る新たな生活空間＞



行政機関間・官民連携用のデータ連携基盤 (国が主導して整備)

(2) デジタル人材の育成・確保
地域で活躍するデジタル推進人材について、2022年度末までに年間25万人、2024年度末までに年間45万人育成できる体制を段階的に構築し、2026年度までに230万人確保。


【主要施策】

- デジタル人材育成基盤の構築・活用
- 大学等における教育
- 離職者等向けの支援 (職業訓練)
- 先導的人材マッチング事業、プロフェッショナル人材事業の推進 等

(3) 地方の課題を解決するためのデジタル実装
交通・農業・産業・医療・教育・防災などの各分野について、デジタルを活用して効果的に地域課題を解決するための取組を全国できめ細やかに支援。併せて、地域づくりを推進するハブとなる経営人材を国内100地域に展開。

【主要施策】

- 地方創生関係交付金等による分野横断的な支援
(デジタルの実装に取り組む地方公共団体：
2024年度末までに1000団体)
- 構想を先導する地域への支援
(スマートシティ、スーパーシティ等)
- 稼ぐ地域やしごとの創出への支援
(農林水産業、中小企業、観光等)
- 地方へのひとの流れの強化への支援
(地方創生テレワーク、関係人口等)
- 持続可能な暮らしやすい地域づくりへの支援
(教育、医療、防災等) 等




ICTオフィスを核とした「仕事の場の確保」
(福島県会津若松市)

(4) 誰一人取り残されないための取組
年齢、性別、地理的な制約等にかかわらず、誰でもデジタルの恩恵を享受できる「取り残されない」デジタル社会を実現。

【主要施策】

- デジタル推進委員の制度整備
(2022年度に全国1万人以上でスタートし、拡大)
- デジタル分野での地域の実情に応じた女性活躍の推進 等



⇒デジタルが実装された目指すべき社会の実現に向けて、政策をフル活用して取組を一層加速化

前回（JANOG49）の振り返り

続・IXの現状と新たな展開 -地域IXの展開と果たすべき役割-
金子発表資料

<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog49/contix/>

なにが足りないのか？

- 結局は国主導の一律的な施策に見える
 - 特に「基盤整備」と「人材育成」はお役所的発想？
 - 「課題解決の実装」の中身と進め方が極めて重要だが・・・
- 実働部隊はどこに？その支援策は？
 - 本当に必要なのは「地域人材・コミュニティ」の活性化では？
 - 地域の人を「自発的」かつ「永続的」に動かす仕組みが必要
 - 一過性の補助金・助成金では解決できない

施策に対する
コレジャナイ感

前回 (JANOG49) の振り返り

続・IXの現状と新たな展開 -地域IXの展開と果たすべき役割-
金子発表資料

<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog49/contix/>

地域IXは地域コミュニティである

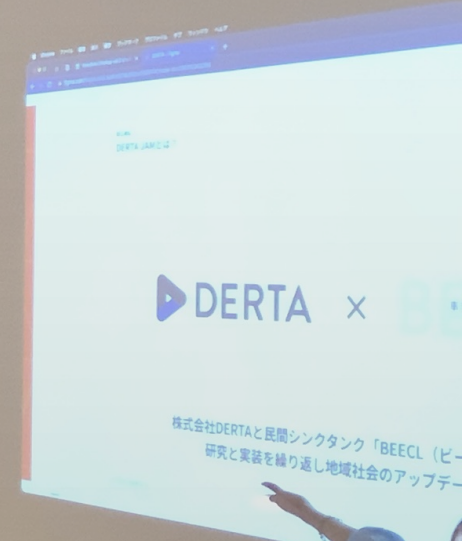
地域コミュニティ の重要性

- **そもそもIXは「つながりあう場」**
 - ネットワークがつながりあい、トラフィックを交換する
 - **人々がつながりあい、情報や情熱を交換し、ビジネスを生み出す**
- **地域IXは、それを地域単位で具現化するもの**
 - 地域の人々がつながり合い、高めあう
 - 地域のために、地域の人が、地域の仕事をやる
 - **ISP事業者だけでなく、異業種間の交流も必要**

都会と地域の
交流はとても有用

ただし、一方的でなく
相互依存の関係
であるべき

最近の身の回りの動向



肌身に感じる周囲の変化

• ダイバーシティの拡大

- 新潟に住み続けながら、県外の企業に転職
- 県外の企業に働き続けながら、新潟に移住
- 複業・起業という選択肢と支援環境の充実

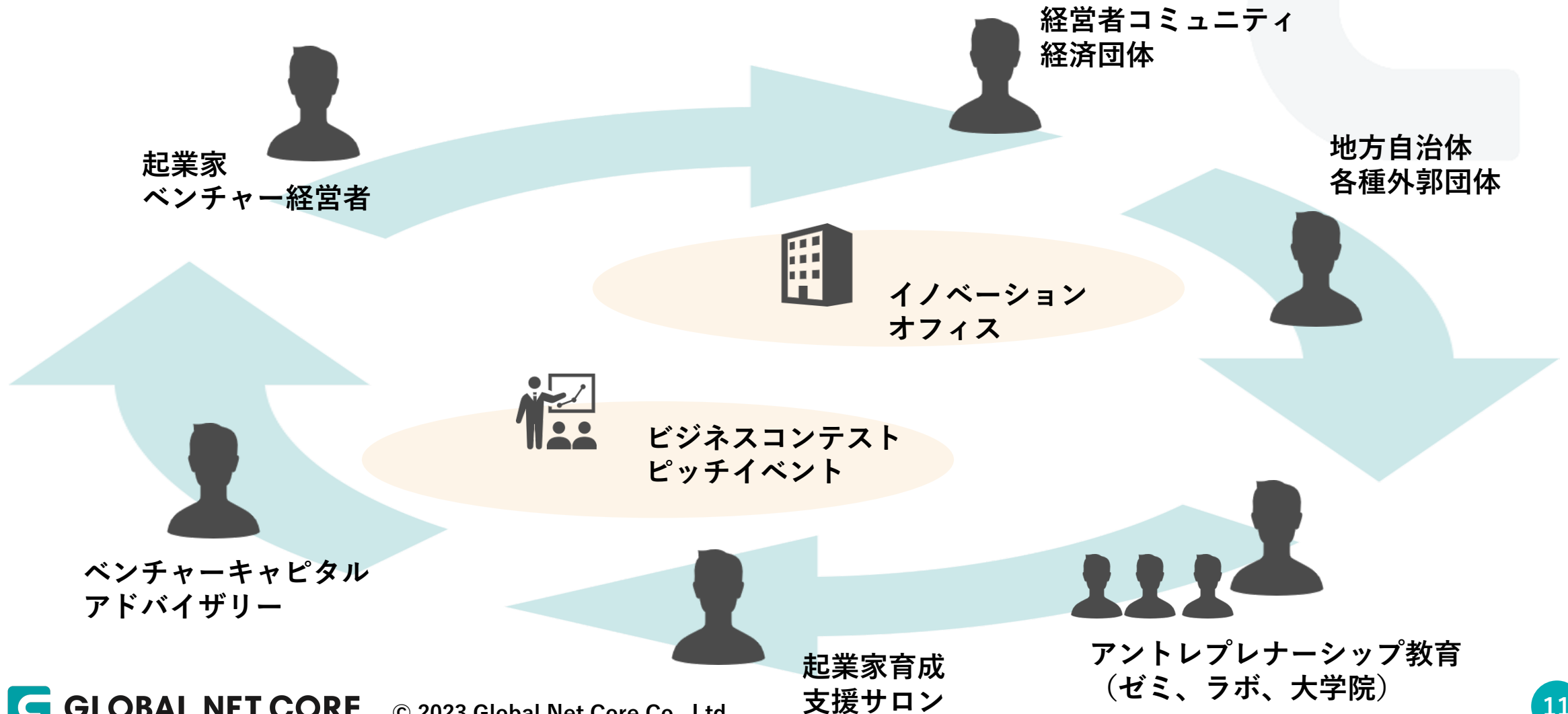
• 新たなコミュニティやエコシステムの誕生

- 若手キーパーソンの出現で状況が一気に変化
- リアルな交流や新しい社会のあり方を求める機運
- イノベーションを促進する「場所」「人」「コト」

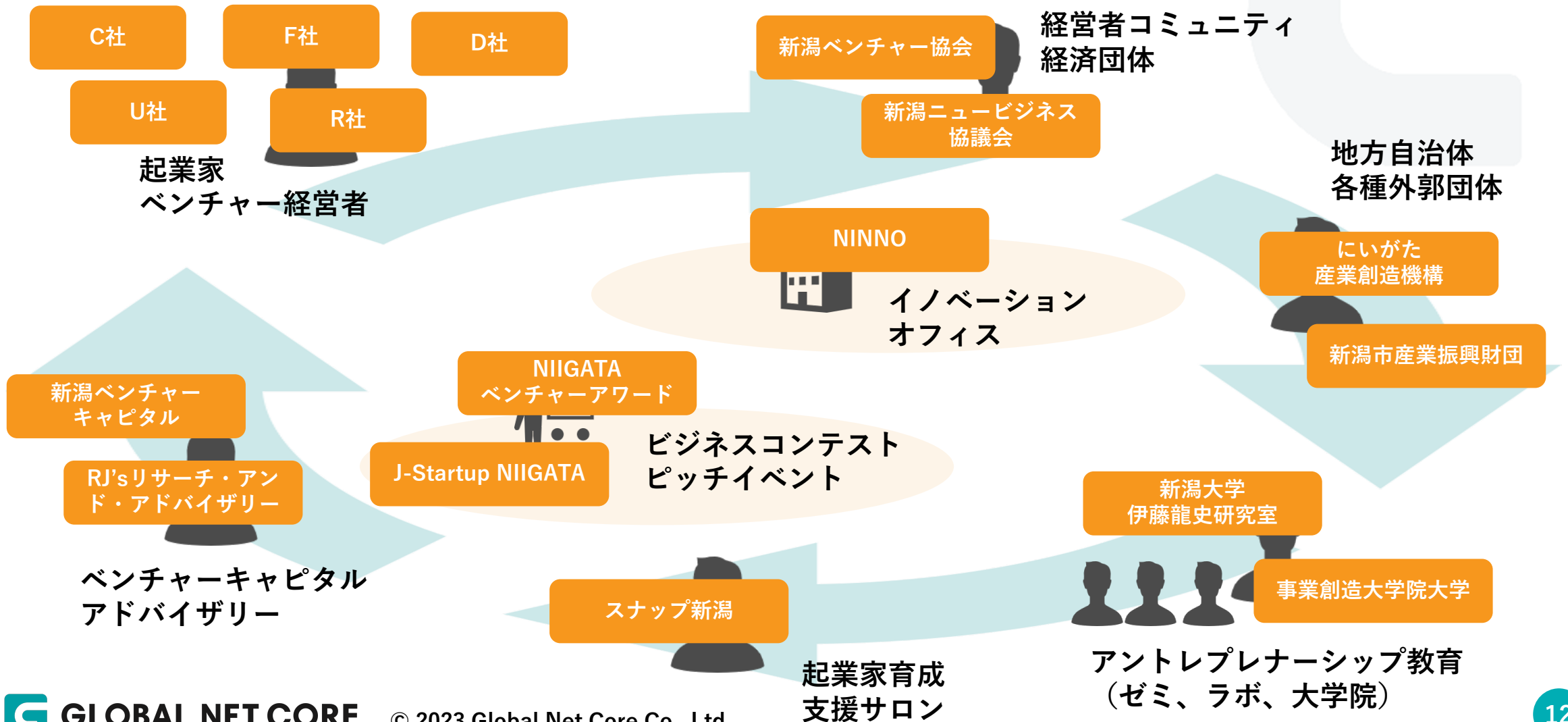
新たなワークスタイル
地域における多様性の増加

リアルな交流・刺激の渴望
共創コミュニティの発生

エコシステムの成熟 (スタートアップコミュニティの事例)

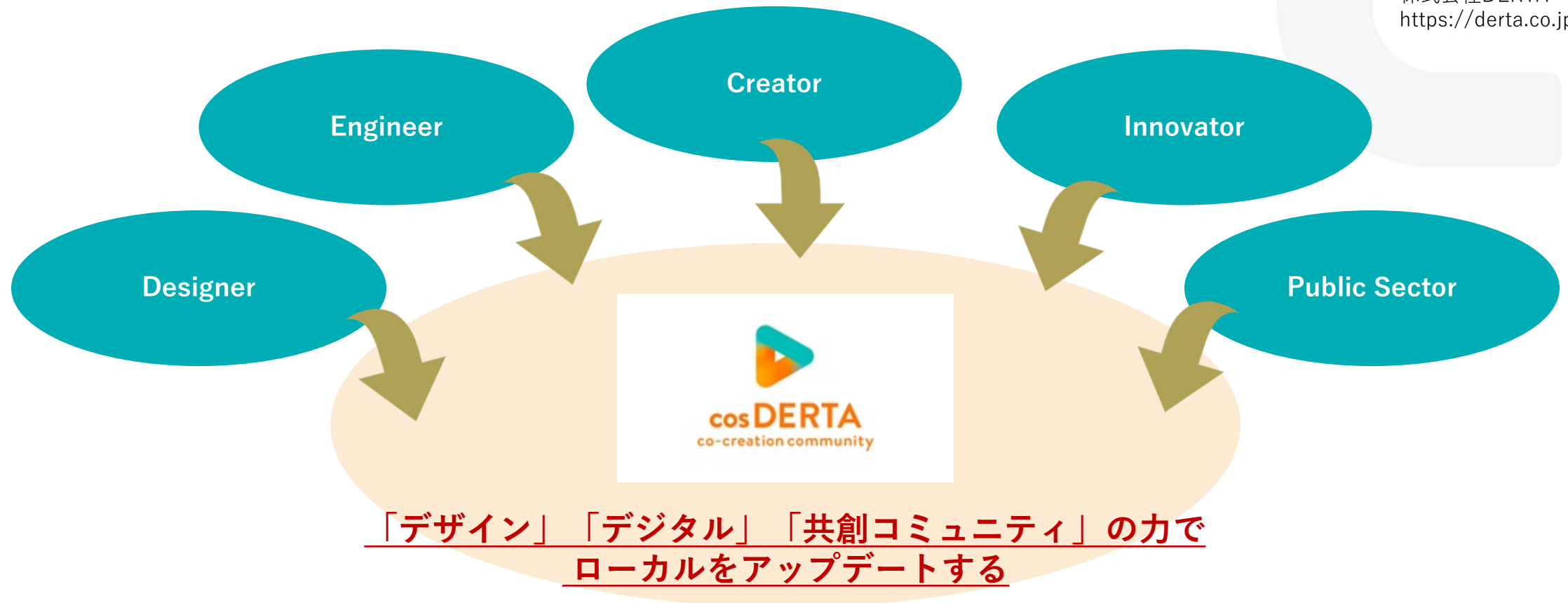


エコシステムの成熟 (スタートアップコミュニティの事例)



地域人材のゆるいつながり (株式会社DERTAの事例)

株式会社DERTA
<https://derta.co.jp/>



定期的に行われるミーティング、セミナー・ワークショップ、オンラインコミュニケーションを通じて地域の様々な才能をつなぎ、「うねり」を生み出すことを目指している

『弱い紐帯の強さ』

価値ある情報の伝達やイノベーションの伝播においては、
家族や親友、同じ職場の仲間のような強いネットワーク
（強い紐帯）よりも、ちょっとした知り合いや知人の知人の
ような弱いネットワーク（弱い紐帯）が重要である

“The Strength of Weak Ties” (Mark S. Granovetter, 1973)

地域活性化のためにできること

- 地域の中で幅広い人の繋がりを持つこと
 - 地域IX？地域データセンター？地域NOG？
 - その技術・設備・知見を、地域のためにどう活かせるのか
 - 多様な人々と接することで、新たなアイデアや価値・熱量が生まれるはず
- 住むことができる地域、住みたい地域にすること
 - 心地の良いコミュニティ、循環するエコシステムを作りたい
 - コミュニティやエコシステムがあれば、地域が澱むことはないはず
 - 「ワーク・ライフ・バランス」から「ワーク・イン・ライフ」へ

地域の人々の力を合わせて、新たな地域社会の仕組みをデザインできれば・・・



taking a step forward...